

令和4年度出雲市景観審議会議事録

とき : 令和4年5月25日(水) 14:00~16:00

ところ : 出雲市役所3階 庁議室

出席者 :

審議会委員

区分	氏名	摘要
市議会委員	長廻 利行	出雲市議会建設農林水産委員会委員長
学識委員(建築)	原 裕子(欠席)	島根県建築士会平田支部副支部長
学識委員(文化財)	和田 嘉宥 ◎	出雲市文化財保護審議会委員
学識委員(土木)	櫻 隆之 ○	出雲市建築審査会会長
学識委員(道路)	平田 明子	国土交通省道づくり女性会議委員
学識委員(造園修景)	榎野 浩二郎	島根県景観アドバイザー
各種団体代表	佐藤 初美	出雲商工会議所女性会会長
	高野 智子(欠席)	J Aしまね出雲女性部部长
市民委員	田邊 達也(欠席)	出雲観光協会会長
	山田 隆章	島根県広告美術協同組合理事長
	高橋 義孝(欠席)	出雲市自治会連合会副会長
	吉田 美智子	前出雲文化伝承館館長
	出席:計8名	

◎: 会長 ○: 副会長

市民文化部 文化スポーツ課	矢田 和則	文化スポーツ課課長
	藤井 武	文化スポーツ課新体育館整備室室長
	石橋 信幸	文化スポーツ課新体育館整備室室長補佐
	原 育也	文化スポーツ課新体育館整備室主任
出雲市新体育館 整備運営事業者	苅北 匡史	鹿島建設株式会社 中国支店 山陰営業所営業課長
	舟窪 眞吾	株式会社梓設計 関西支社 設計部主任
	東本 貴弘	有限会社ナック建築事務所代表取締役
事務局	土井豆 徹	建築住宅課課長
	古川 薫	建築住宅課主査
	三原 隆弘	建築住宅課課長補佐
	尾添 守	都市計画課課長補佐
	米山 靖	建築住宅課係長
	神門 香菜	建築住宅課副主任技師

<配付資料>

資料1 新体育館について(前回審議会での景観に関するご意見への検討結果の報告)

資料2 令和3年度まちづくり景観整備事業の取組について

1. 開会

2. あいさつ

(要旨) 景観審議会の委員について、本年4月1日より新たな任期となっており、建築の学識委員の遠藤委員は退任され、後任として原委員に就任いただく。

本日は、まず会長、副会長を選任していただき、次に出雲市新体育館について報告させていただく。昨年7月の景観審議会でも新体育館建設についていただいた意見の検討結果を文化スポーツ課と事業者の方から報告を受ける。このほか、事務局から築地松景観保全対策の取組、神門通りの修景助成、屋外広告物の許可、大規模行為の届出等の実績について報告させていただく。

※出席者紹介

※審議会の成立

委員12名のうち8名が出席(過半数の成立要件を充たす)

3. 議事

(1) 会長・副会長の選任

[委員] 今までの実績等を踏まえ、引き続き会長に和田委員、副会長を櫻委員にお願いすることを提案する。

他の委員異議なしにより、会長：和田嘉宥委員、副会長：櫻隆之委員に決定した。

※会長・副会長あいさつ

以降は、和田会長が議長として進行。

4. 報告事項

(1) 新体育館について

(資料1に基づき、整備運営事業者が説明。プロジェクターに図面を映写し、屋根、外壁については色のサンプルを提示。)

○敷地全体の植栽、駐車場の植栽、法面への転落防止策について

※質疑、意見等

[委員] 並木の景観として築地松をデザインするという説明だった。市役所の北側に黒松が植わっているが、あのようなイメージでよいか。

[事業者] それに近い形になると思う。

[委員] 市役所北側の黒松は、高さが6mぐらいあると思うが、あれより低く、間隔が少し広めということ。黒松は松くい虫の被害があり、出雲で平成23年に全国で一番松くい虫の被害が出た。子供たちに健康被害が出たため、防除薬剤の空中散布が中止になってから、松くい虫被害が拡大した。今は樹幹注入を行って保全に努めている。松くい虫に強い抵抗性の黒松があるので、それを選択してほしい。また、バーベキューヤードがあったが、黒松はたき火等をすると、つちくらげ病という病気が発生するので、バーベキューヤードは黒松から離れたところで検討してもらったほうがよい。

グランドカバープランツについて、この前シバザクラが新聞に載っていたが、あれは地域の皆さんや個人の努力で1年間管理して花を咲かせるというようなもので、広範囲になってくると、相当な努力が必要となる。出

雲大社の大駐車場の法面でもシバザクラにチャレンジされたが、今はない。斐川インターを降りて9号と交わるところの法面は、防草シートに穴をあけて、植栽にチャレンジされたが、今全く残っていない。やるのであれば、相当メンテナンスをやらないと生育が難しいと思う。また出雲の環境で育ちにくいので、繁茂してもメンテナンスが必要。

駐車場の高木の常緑の植栽に、シマトネリコをということだが、実は非常に寒さに弱い木。去年はマイナス5度ぐらいまで下がったと思うが、そのときにそういった暖地型の樹木は非常に被害が出た。暖地型というと、ヤマモモ、アラカシ、クスノキなど。また、よく道路に植栽されているガザニアも非常に霜に弱くて、すぐやられてしまう。このシマトネリコもそういう観点からもう少し考えて樹種を選択されたいと思う。

それと法面の植栽だが、一番維持管理しやすいのはノシバだと思う。そういうものが非常に扱いやすいと思う。

[事業者] 何とか頑張ってメンテナンスをやっていきたいと思う。シマトネリコについては、寒さ対策等するのか樹種を変えるのか、改めて検討させていただきたい。

[委員] シバザクラにこだわられる理由があまり分からない。私の家は国道と市道が交差するところに建っていて、国道はわりと業者の方が手入れするが、市道はあまり手入れされない。事業者の方は維持管理をすると言われるが、それだけの維持管理費が市の予算で取れるのかと思ってしまう。

[文化スポーツ課] 今回はPFI事業で、維持管理も含めた形で契約をさせていただいている。市が別枠で予算を取ることはなく、契約の中に維持管理も入っている。また、長期の維持管理をお願いしているため、金融機関等も含め、市でもチェックをするようになっている。景観に配慮し、しっかりと維持していただく必要があるので、市もチェックをしながら事業者にも維持管理をお願いしたいと思う。

[委員] 契約の期間は10年とか20年か。

[文化スポーツ課] 15年の契約。

[委員] 私が住んでいるところは、今50年経ちその間にたくさん木が枯れている。どうやって通りの景観を維持しているのかというと、住民たちがボランティアで行っていて、年に何回か草取りをしている。この体育館の周りは住民がいないので、公共の力でしか綺麗に維持管理ができないと思うので、それなりの維持管理について、明確に契約に盛り込んでおいてほしい。

[委員] シバザクラについては、私も気になっていた。以前、都市公園の担当をしたことがあるが、グランドカバーにはいろいろな種類があり、苦労し、ほとんど失敗した。シバザクラには、個人的に興味があり自分の家の庭に3㎡くらい植えたが、3年ほどで消えた。なぜかと思い、書籍でも調べた。管理にものすごい手間がかかる。夏は蒸れて、冬は“くしゅん”とした感じになる。

雑草を一生懸命取ったが、結局育たずに消えた。シバザクラに適正な場所とそうでない場所があると思うので、グランドカバーについてはもっと調査をされ、その土地に適合した、そして維持管理費をあまり多くかけないような地被植物を選択し、花は違った形で見せるなど、思い切った発想の転換をされた方が良いと思う。

次に駐車場計画であるが、景観審議の立場とは異なるが、以前経験したことを踏まえて申し上げる。水族館アクアスの駐車場計画を立てた際のことである。平面図上で駐車配置計画を立案し、車の動態を検討した。当時駐車場への渋滞が懸念されたことから、渋滞予測をコンピューターシミュレーションで実施した。最近の駐車場の問題を調べると、自動車の衝突事故が起こる場所は、一般公共道路の事故も多いが、全国で駐車場での事故発生が4分の1を占めている。平成2年に国土交通省都市局が大規模集客施設の駐車場内安全確保のガイドラインを出している。調べていただくと分かるが、兵庫県が具体的なチェックリストを出している。ここでもそのようなチェックをかけたり、場合によってはコンピューターシミュレーションをかけたりして、最適な駐車場計画の策定をされることが望ましい。設計にあたっては、どういうことに基づいて、車の配置計画、出入計画等を立案したのかも明確にしておかれるべきと考える。

それから、次に防災調整池の排水路と法面の形態はどのような設計か。調整池の中央部分の水深はどれくらいか。

[事業者] 池自体の水深は、満水時、最大に溜まって約20cm。幅が一番狭いところで、1m程度で、広いところは4m～6m程度。

[委員] 法面に当初フェンスはなく、危険な場合は注意しながらやっていくということを説明された。20cmでも顔をつけると子供は危ない。そのようなケースに対して、管理上問題がある場合は検討すると言われたが、その考え方には落ち度があると思う。事前にどういう危険があるかチェックをかけて、必要な場所にはフェンスをする。フェンスも自然に合わせた製品がある。景観に配慮してフェンスをしないというのはやはり違うと思う。いかに事前に安全を確保するための施設にしておくかということをやっていただきたい。

[和田会長] 先ほど出雲科学館に同じような法面があると言われたが、出雲科学館の法面の下には調整池はない。ここで転んだケースとかそういったものがあるかどうか、法面に入らないような配慮がされてるかどうか。そのあたりも含めて回答をしていただきたい。

[事業者] 危険性についてはよく考えてやっていきたいと思う。調整池は雨が降った時しか貯まらないが、雨の時は滑りやすいということもあると思うので、運営とも相談しながら、注意喚起をどうするのがいいか、パトロールをするのがいいかということも含めて考える。今いただいた意見の視点で改めてしっかり設計面での検討も十分に行った上で、管理・運営に努めたい。

[和田会長] 先ほど委員からもあったが、駐車場で衝突事故が多いということで、それに対する対応は考えているか。

[事業者] 駐車場がたくさんある以上、必ず渋滞が発生するが、今回の計画では、出入口を1ヶ所にまとめている。ここに警備員を配置し、きちんと誘導して車を出すことで、なるべく渋滞しにくいように考えている。駐車場から出入口までは、長めにとっていて、そこで待機させて、少しずつスムーズに誘導する計画をしている。実際に使用しだしてから言われることも多いと思うので、そのあたりについても運営と話をしながらやっていこうと思っている。

[委員] おっしゃる通り、運営は大事だと思っているが今は設計の話である。出入口をしっかりして警備員を配置するなどには運営上行われることであり、それは大切なことである。また安全対策としてどのような標識板を設置するかということもある。しかし、駐車場には交通の規制はない。そのため、駐車場内では車の運転手の責任で安全が確保されることになるため、どうしても衝突事故等の発生が多くなると思う。せっかくガイドラインが出ているので、チェックをかけてみてどうかということを検討してほしい。兵庫県はなぜ一生懸命かという、相当事故が発生しているからだと思う。事故が起きてからでは遅いので、そういったチェックをかけたらかどうかという意見である。

[委員] シバザクラは、瞬間的に綺麗だが、咲いていない時はどういう状況になるのか。私の家の前にも自分で植えているが、1年のうち咲いている時期よりも黒いシートをかけている時期のほうが長い。

また、景観上樹木は大切であると思うが、落ち葉や安全性などやはり管理は大変だと思う。そういう中で、本当に運営上のチェックがきちんとされるのかが心配である。いろいろな方が入ってチェックしていただけるのはいいと思う。運営上の経費は決まっているとのことだが、経費のほとんどが植栽に使われてしまうと体育館の機能の充実にはつながらないと思うので、しっかりチェック機能を働かせてほしい。

[事業者] 設計の時に考えた内容を施工、運営に伝えていくことが大事だと思っているので、設計者としてしっかり伝えていきたいと思う。

シバザクラは常緑なので、花が咲いていない時は緑になる。ピンク色に咲くのは1年のうち限られた期間だが、シバザクラの季節に合わせた大会などがあれば、その大会とともに、シバザクラの景観が記憶に残るといいなということも考えながら設計をした。

[和田会長] 築地松が体育館の西側と北側にあり、高さは5mとおっしゃたが、これは5mに育てた木を植えられるということか。

[事業者] 植栽時点は3m程度で、5mまで伸ばす。

[委員] 最初に大きなものを置くのは、経費等もありなかなか難しいが、目標樹形を持つことが肝心。個人的には、築地松の高さは棟の高さよりもわずかに上げてほしいというところを話をさせてもらっている。文化伝承館は棟

の高さが 8.5mなので、築地松の高さを 9mの高さに設定し、陰手刈りをさせてもらっている。体育館の棟の高さは相当高いと聞いたので、その高さは無理かなと思った。また、何年かすると、剪定作業が必要になってくると思うが、法面もあり作業がしにくい場所である。5m程度であれば、脚立や昇降機で剪定をすることができるが、それ以上になると高所作業車等を利用して作業をしなければならない。あまり高くすると管理面でも難しいと思う。

[和田会長] これからの維持管理が課題だが、それはお任せするしかないので、よろしくお願いしたい。

○屋根、外壁の色彩と形状について

※質疑、意見等

[和田会長] 壁面は 2 色のサンプルがあるが、両方を使うのではなく、どちらか一方を使うのか。

[事業者] どちらか一方を使用する予定。色については、工事をしていく中できちんと決めていく。単調な壁面だと倉庫のような外観になってしまうので、少しデザインを取り入れるべきと思っている。

[和田会長] 壁面を分割されるというのは、凹凸が出てくるのか。

[事業者] 凹凸は出てこない。デザインが異なるギザギザしたパネルを使う。色は現地で確認して考える。

[委員] 屋根の色を黒ではない色に変えてどのようなイメージになるかと思っていたが、今日拝見した構想図では、赤系は少し“けばけばしい”感じがして想像とは違っていた。事業者の方が説明された考え方は、出雲市景観計画における基本方針である「背景の北山と調和するまちなみづくり」には合致している。単体の計画・設計ではよく検討されていると思う。しかし、この場所は景観形成地域であり、この景観形成地域の統一感をどう出せるかが問題である。統一感というのは、高さのバランスと色使いである。この地域には県立大学が既にあり、県立大学のインパクトが強く、これとどう調和させるかというのが問題で、これは非常に難しい。現地を再度見たが、県立大学の周囲にかなり高い樹木があり、建物が覆われてしまい、県立大学のインパクトが弱まった感じがあった。少し屋根の赤さは目立っていた。

景観形成基準の中に色彩の項目があり、屋根は黒、茶（来待色）またはこれらの周辺色となっているため、今回は黒色を提案されたと思うが、現地での統一感がどうかということである。これまで来待色はどうかと言ってきたが、提案されている金属屋根の場合に多分色がないから、赤っぽい色を選定されたと思う。周辺色としてどうかということで、現地を見たときに、確かに県立大学の裏手には一部黒色の屋根があるが、全体を見た場合には、この地域ではグレー系色がかなりのエリアを占めていた。事業者の方は銀黒という提案をされたが、銀黒もほとんど黒と変わらない感じであり、むしろ「いぶし色」で少し明るい感じの色がイメージに合うと思い、地域状況も勘案す

ると周辺色としてグレー系を使って問題ないと感じた。

グレー系は体育館に落ち着きを与えるのではないかと思う。県立大学の華々しいイメージが樹木に覆われているので、落ち着きのある、少し渋い感じのタイプの建物で壁面は温かみのある色で表現することが望ましい。

また、提案のあった壁面のパッチワークの考え方については、私が描いた市内某所の壁面イメージとは異なり、かえってアクセントが出るため良い方法であると考えている。

[委員] 県立大学の樹木が大きくなり、イメージが変わってきたという話があったが、大きくなっている木はメタセコイアで冬場に葉が落ちるので、落葉時にはまた違った景観になると思う。体育館で配置計画があるジンドアイアケボノは高くなる木ではないし、黒松も5m程度に抑えるということなので、県立大学のように建物を覆いつくすような景観にはならないと思う。

また、屋根の色が黒で瓦棒だと松江市総合体育館と似た感じになるのではないか。また、赤系の色は古代出雲歴史博物館がコールテン鋼を壁に使っているの、そのイメージがあるし、この色で瓦棒をやると少し安っぽい感じがするのではと思う。それと神門通りが景観色をグレーにしている。照明やポールなどを青みがかったグレーにされている。この景観形成地域で統一感を出そうと思うと、それとは違う色でいいと思う。

また、壁を覆いつくすような樹木の大きさにはならないので、壁も単調な一色ではなくパッチワークみたいな感じがいいと思う。

[和田会長] 松江の場合は、松江城から見た時に体育館の屋根と裁判所の屋根が同じような色であるが、ここの場合には、高台から見るところがないので、目立たないと思う。体育館については、今回議論があったことを踏まえて進めていただきたいと思います。

[文化スポーツ課] 新体育館は、この先50年、60年と使っていく施設となるので、景観的にも素晴らしいものとなるようにしていく。運営も含め、皆さんに愛される体育館を作っていきたいと思うので、引き続き見守っていただきたい。

(2) 令和3年度まちづくり景観整備事業の取組について

(資料2に基づき、事務局が説明)

※質疑、意見等

[委員] 築地松のボランティアガイドについて、どのような方が来られたのか。

[事務局] 斐川東中学校の生徒が課外学習の一環で50人ぐらい来られた。また、築地松コミュニケーションにも載せているが、ジオパーク再認定審査で視察に来られた方や、ジオガイド養成講座の受講者の方も来られた。その他では、大学の研究の一環でガイドを受けたいという方もいる。

[委員] コロナが蔓延してから、地元にも目を向けようという学校も多くなった。コロナが収束したらどうなるかは分からないが、せっかく築地松という素晴ら

しいものがあるので、大人にも子供たちにも伝えられるような宣伝があればいいと思って質問した。

[和田会長] 他に質問事項等がなければ、これで次第にある事項は終了する。

[事務局] 非常に貴重な意見をいただいた。今後も景観行政に理解、協力をいただきたい。

閉会